

ロシアのフォード労働者に関する決議

ロシア・ウセヴォロイスクのフォード労働者を支持する国際金属労連中央委員会の決議

世界の 2500 万の労働者を代表する国際金属労連の中央委員会は 2007 年 11 月 28 日－29 日にブラジルのバイーア州サルバドールにて開催され、ロシアのウセヴォロイスクのフォードの自動車組立工場での経営側の行動の結果として展開した状況の悪化について深い懸念を表明した。労働組合側の賃金および労働条件に関する交渉への建設的で誠実な対応にもかかわらず、経営側は何カ月もの間労働組合が提出した提案を真剣に検討することを拒否し、意味のある交渉の継続のための労働組合側との会合を欠席してきた。その結果、労働者は、経営側に公正で相互に合意できる内容に至るための交渉の継続を求めて、11 月 20 日から無期限のストライキに突入した。

ストライキの当初の先週に特殊警察隊を呼ぶという会社の決定は労働者を脅迫しようとするような過剰で不必要な行動であった。ストライキの開始早々、警察は事業所の入り口を閉鎖し、労働者が工場に入場することを阻止した。さらに州警察は工場敷地内を警備するよう会社から要請された。労働者の基本的なストライキの権利を行使することに対抗して民間企業が州警察隊を利用することは容認できない。さらに会社はストライキ期間中に生産を再開しようと非生産的な手段に移行してきた。11 月 28 日にはすでに 1 名の労働者が地域警察隊によって負傷している。別の労働者は経営側が生産を再開しようとしたときに組立ライン上で重傷を負っている。

われわれは、賃金および労働条件を引き上げるためのウセヴォロイスクのフォード労働者の闘争を支持し、会社にかなる形態の労働者への脅迫や津からの行使をも停止するよう要求し、経営側に公正な協約に至るよう労働組合との建設的な交渉に、早急かつ誠実に入るよう要請する。

2007 年 11 月 29 日 I M F 中央委員会において採択